

5 発言しやすい職場環境の醸成に向けた研究

田中 春奈

堀下 智子

小倉 有紗

和田 一成

1 目的

労働災害や事故などが発生する過程で、気付いていたが発言できなかったために、結果としてそれらにつながってしまうことがあります。発言できなかった状況はどのようなもので、どのような要因があるか、それを明らかにすることが、「おかしいと言える雰囲気」をつくるための手がかりになるのではないかと考えました。

まず、世間一般では言いたいこと・言うべきことが言えない人はどのくらいいるか、現状を把握することを目的とし、調査を実施しました。

2 内容

2019年3月に、社会人（インターネット調査会社に登録している18～69歳の男女1万名）を対象に、Webアンケートを行いました。質問等の作成にあたり、看護学生や新人看護師を対象にした質問紙調査を行った先行研究¹⁾²⁾を参考にしました。アンケートでは、問1「雇用形態」、問2「職場での役職」、問3「職場での在籍期間」、問4「職場が話しやすい雰囲気か」、問5「思ったことが言えないことがあるか」の5問を、それぞれ選択式で回答を求めました。なお、問2以降、問1「雇用形態」で「現在働いていない」と回答した協力者を除いて回答を集めたため、問2以降の回答者数は9,688名となりました。

結果の分析はHAD（HAD16_051）³⁾を用いて行いました。

3 結果

(1) 職場の雰囲気と言えない時がある頻度

問4「職場が話しやすい雰囲気かどうか」という質問に対して、「とても話しやすい」～「とても話しにくい」の4段階で回答を求めたところ、とても・やや話しやすいと回答した協力者が多くを占めました（78.4%）。一方、問5「言えない時があるかどうか」という質問に対して、言えない時がよくある・ときどきあると回答した協力者も半数以上（65.2%）いることが分かりました。

この2つの結果をクロス集計したものを表にしました。問4と問5には弱い負の相関関係がありました（ $r = -0.32, p < .001$ ）。したがって両者には、職場が話しやすい雰囲気だと感じているほど、思ったことを言えない時がある頻度が少ないといった関係があると考えられます。

表 問4、問5 クロス集計表

(単位：人)

		問5				合計
		よくある	ときどきある	あまりない	全くない	
問4	とても話しやすい	301	1127	1204	382	3014
	やや話しやすい	551	2666	1262	103	4582
	やや話しにくい	443	771	266	36	1516
	とても話しにくい	379	79	43	75	576
合計		1674	4643	2775	596	9688

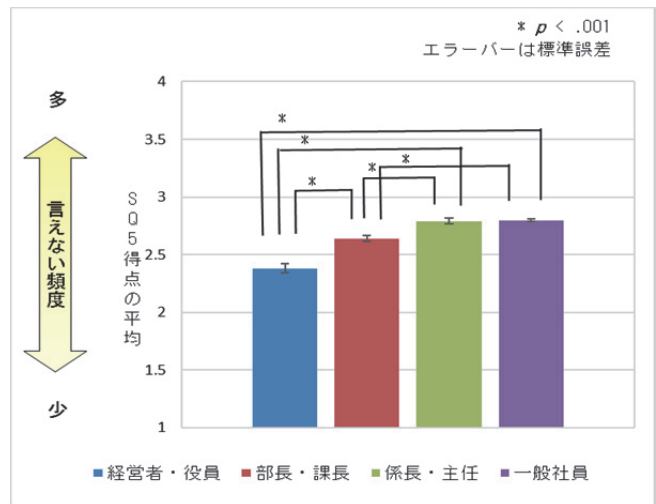


図 役職ごとの「言えない頻度」

(2) 役職と言えない時がある頻度

問5の回答を「よくある」4点～「全くない」1点として、役職ごとの平均点を分析しました(図)。その結果、役職によって、言いたいこと・言うべきことが言えない頻度が異なることが分かりました($F(3, 9684) = 45.20, p < .001$)。それぞれを見ると、経営者・役員クラスと部長・課長クラスよりも一般社員、係長・主任クラスの方が言えない頻度が多く、経営者・役員クラスよりも部長・課長クラスの方が言えない頻度が多くなっていました(いずれも $p < .001$)。したがって、役職が下がるにつれて言えない時がある頻度が多くなると考えられます。

4 まとめ

一般の社会人を対象に、Web アンケート調査を行いました。その結果、職場の話しやすさと、言いたいこと・言うべきことを言えないことがあるかどうかには弱い負の相関があることが分かりました。また、役職が下がるにつれて言えない時がある頻度が多くなることが考えられます。

【参考文献】

- 1) 鈴木英子・吾妻知美・丸山昭子・齋藤深雪・高山裕子. 新卒看護師が先輩看護師に対してアサーティブになれない状況とその理由. 日本看護管理学会誌. Vol.18, No.1, pp. 36-46, 2014.
- 2) 吾妻知美・鈴木英子・齋藤深雪. 看護学生のアサーティブネスの実態ー基礎看護学実習でアサーティブになれなかった状況と実習後のアサーティブ得点からの考察ー. 日本保健福祉学会誌. Vol. 21, No.1, pp. 13-23, 2014.
- 3) 清水裕士. フリーの統計分析ソフト HAD: 機能の紹介と統計学習・教育、研究実践における利用方法の提案. メディア・情報・コミュニケーション研究. 1, pp. 59-73, 2016.